

授業科目名	地域研究（３）	単位数	2 単位
担当教員名	平岡 麻里	担当形態	単独
実務内容 （実務家教員の場合）			
「学位授与の方針」との関係 星槎大学は、「人を認める、人を排除しない、仲間を作る」という三つの約束のもと、「人と人、そして人と自然とが共生する社会の創造に貢献する」を教育理念としています。共生科学部は、この三つの約束、教育理念に基づき、「21 世紀を創造する広く深い知の涵養」「共生する心の耕作」「課題探究能力の育成」「インクルージョン教育に基づいた社会実践を担い、社会変革を目指す人材の養成」を教育目的とし、以下の「星槎共生スピリット」を身に付けたものに学位を授与します。 A. 共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現の専門的知識を生かし、狭い専門領域を越えて統合しようとする意志を持つこと。 B. 問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概を持つこと。 C. 共感理解教育の理念を認識し、実践すること。 D. 多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけていること。 E. 個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。 F. 共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと。			
授業のテーマ及び到達目標			
(1) 「ヨーロッパとは何か」を自分なりに理解し、説明できる。 (2) 現代イギリス社会の状況と課題を歴史的および文化的背景を踏まえて説明できる。 (3) イギリスまたはヨーロッパについて、自身の興味・関心に応じてリサーチを行い、その結果を論理的な文章にまとめることができる。			
授業の概要			
「ヨーロッパ」と聞くと、何か統一された地域のイメージが浮かぶかもしれない。それは決して間違っていない。しかし近年のイギリスの EU 離脱から見て取れるように、ヨーロッパは一枚岩の共同体ではない部分もある。この授業では、ヨーロッパをヨーロッパたらしめているものは何かを検討した上で、地理的に、そしてアジアやアメリカとの対比においては、社会的・文化的にも間違いなくヨーロッパであるイギリスが「ヨーロッパであり、ヨーロッパではない」といわれる背景を、現代的問題と歴史的背景の両面から考察し、イギリスの社会的・文化的アイデンティティを理解することを目的としている。 指定教科書 2 冊はどちらも良質ではあるが、中高生および一般読者を対象とした読み物である。また、著者は現地の状況に詳しく、一般読者への説明に優れた著述家ではあるが、学術的な意味での専門家ではない。この授業ではこれらを通読した上で、自分の興味・関心に応じてより専門的な文献によるリサーチを行うことが求められる。その上で、発表やディスカッションをアクティブラーニングの手法も用いて実施する。よって、履修にあたっては、決して教科書のみで学修が終わる授業ではないことを理解されたい。			

授業計画

- 第1回：ヨーロッパとは何かー起源～近代（教科書①第1章、第2章）
第2回：ヨーロッパとは何かー戦後～20世紀末（教科書①第3章、第4章、第5章）
第3回：イギリスにとってのヨーロッパ（教科書②第2章）
第4回：連合王国としてのイギリス（教科書②第1章）
第5回：歴史から見る今のイギリス（教科書②第3章）
第6回：イギリスの政治制度（教科書②第4章）
第7回：イギリス王室と貴族（教科書②第1章、第4章）
第8回：イギリス宗教改革とその後の社会（教科書②第3章）
第9回：帝国としてのイギリス（教科書②第6章）
第10回：英連邦および世界とイギリス（教科書②第6章）
第11回：移民とイギリス社会（教科書②第2章）
第12回：階級とイギリス文化（教科書②第5章）
第13回：イギリス教育制度の特徴（教科書②第5章）
第14回：日本とイギリス、日本とヨーロッパ（教科書②第6章）
第15回：文献研究（総括）

定期試験

スクーリングでの学修内容

（授業計画の第3回、第9回、第11回～第15回の内容を中心に包括的に扱う）

スクーリングでは、ヨーロッパとEUの歴史を概観した後、現代イギリスの課題を理解するために必要なイギリスの歴史、社会、文化について学ぶ。教員の講義だけでなく、アクティブラーニングの手法も用い、学生の独自リサーチによる発表およびディスカッションを通じて理解を深める。また、学修成果をまとめた文章（論文）が作成できるように指導も行う。

テキスト

- ①明石和康（2013）『ヨーロッパがわかる：起源から統合への道のり』岩波ジュニア新書。
②池上彰（2019）『池上彰の世界の見方 イギリスとEU：揺れる連合王国』小学館。

参考書・参考資料等

- （1）増田四朗（1967）『ヨーロッパとは何か』岩波新書。
（2）谷川稔（1999）『国民国家とナショナリズム（世界史リブレット）』山川出版社。
（3）加賀美雅弘、川手圭一、久邇良子（2015）『第二版ヨーロッパ学への招待：地理・歴史・政治からみたヨーロッパ』学文社。
（4）鶴岡路人（2020）『EU離脱：イギリスとヨーロッパの地殻変動』ちくま新書。
（5）川北稔、木畑洋一（編）（2000）『イギリスの歴史：帝国＝コモンウェルスのあゆみ』有斐閣アルマ。
（6）木畑洋一、秋田茂（編著）（2011）『近代イギリスの歴史：16世紀から現代まで』ミネルヴァ書房。
（7）アンドリュー・ローゼン（2005）『現代イギリス社会史：1950-2000』岩波書店。
（8）下楠昌哉（編）（2010）『イギリス文化入門』三修社。

その他、必要に応じて別途指示する。

学生に対する評価

スクーリング評価（25%）、レポート評価（25%）、科目修得試験（50%）を総合して評

価する。